

令和4年度

学校関係者評価報告書

令和5年10月30日

学校法人原学園
専門学校青山ファッションカレッジ

令和4年度 学校関係者評価報告書

専門学校青山ファッションカレッジは、「服飾分野」の専門課程の認可を受けた専修学校として、わが国のファッション・アパレル関連産業諸分野の中核を担う優れた人材を育成し社会に貢献することを目的として運営されています。

本校では、平成29年1月に定めた「学校評価実施規程」に従って自己評価委員会を設置し、本校の運営および教育活動について自己点検・評価を実施しています。

その自己点検・評価の結果を、意見交換を通じて評価することを目的とし、学校関係者評価委員会を開催しましたので報告します。

1. 実施日時・場所

令和5年10月23日（月） 10:00～11:40

専門学校 青山ファッションカレッジ 会議室

2. 実施方法

(1) 実施組織：学校関係者評価委員会

○評価委員

安達 稔 業界関係者（ファッションデザイナー）

村山 由紀 保護者（ファッションビジネス科1年）

橋本 友美 卒業生（スタイリスト）

○学校関係（オブザーバー）

江口 崇裕 （校長）

面田 憲郎 （教務職員・主任）

大高 由香 （事務局職員・総務担当）

(2) 評価方法：令和4年度学校自己点検・評価報告書に対する学校関係者評価

3. 自己評価は、以下の10項目を実施。

(1) 教育理念・目的・育成人材像

(2) 学校運営

(3) 教育活動

(4) 学修成果

(5) 学生支援

(6) 教育環境

(7) 学生の募集と受入れ

(8) 財務

(9) 法令等の遵守

(10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価委員の意見・評価

(1) 教育理念・目的・育人人材像

学校の理念・目的・育人人材像は、明確になっており、時代の流れや社会のニーズを踏まえカリキュラムに反映されている。

(2) 学校運営

業務運営方針を毎年策定し、教員・職員に周知し実際の業務運営に繋げ、適切な学校運営を行うとともに、コロナ禍においては、学習の質の低下を避けるべく、緊急事態における最善の措置を講じている。

(3) 教育活動

教育課程は、教育理念を踏まえ、就職に必要な知識・技術の習得とキャリア教育を重視し編成されている。実務経験を有する教員を多く配置し、シラバスを設置して教育到達レベルを明確にするとともに、成績評価基準の明確化を図り、GPAによる学習成果の把握を可能にしている。

(4) 学修成果

学生一人ひとりに、きめ細かい就職指導を実施しており、新型コロナウイルス感染拡大の影響により一時的に厳しい状況に陥った就職活動も、今年度はコロナ禍以前の就職率の水準に回復した。資格取得は学生本人の自由意思としているが、対策授業・個別フォローなど適切な指導を行っている。

(5) 学生支援

就職担当・クラス担任を中心に全教職員が個別指導により手厚い就職支援を行っている。また、円滑な学生生活が送れるように、学生との面談や各種相談など、クラス担任を中心に全教職員が受け入れる支援体制となっている。経済的支援に関しては、家庭の事情に合わせて学費納入期限延長や分割などによる支援を行っている。

(6) 教育環境

教育上必要な施設・設備・教育用具等が整備され、メンテナンスも行き届き快適な学習環境を提供している。インターンシップ等の学外実習にも積極的に取り組んでいるが、今年度もコロナ禍という特殊事情で受け入れ先が減少している。見聞を広め感性を高めるために欧州研修旅行を実施しているが、今年度はコロナ禍のため休止とした。防災・安全管理に関しては法令に基づく点検等を実施するとともに、校内巡回および防犯カメラを設置するなど、防犯・火災予防に取り組んでいる。

(7) 学生の募集と受入れ

学生募集に関しては、ホームページを充実させるとともに、専門学校への進学が多い全国の高校への学校案内の送付、および入学実績・資料請求が多い首都圏を中心とした高校への訪問・面会を実施し、情報提供を行っている。また、進学情報サイト・進学情報誌を利用した広報活動、および、学校説明会・体験入学・学校見学による学校概要の周知に努めている。

(8) 財務

昨年度までは無借金であったが、コロナ禍を原因とした入学者数への影響は如何ともし難く、今年度は借入調達を実施した。アフターコロナとなる次年度以降の自然回復に期待しつつ、同時に環境変化への対応策を検討・立案し早期の施策実施に努める。

(9) 法令等の遵守

法令を遵守し適正な学校運営が行われている。

(10) 社会貢献・地域貢献

アパレル業界のプロに向けた社会貢献活動が行われているものの（今年度はコロナ禍で休止）、現状、ボランティア活動への取り組みはなく、今後取り組む場合には、学業への支障がない範囲で協力・支援を行う。

(11) その他

- ・現状、検定試験の受験は全員強制ではなく、学生本人の自由意志としているが、受験を義務化した方がいいのではないかと。いくつもの検定試験の受験を義務化することは難しいと思うが、各学科の特性に見合った検定試験を最低一つ以上、全員に受験させることで、できるだけ多くの学生に資格を取得させた方がいいと思う。
→現在も、学校として受験を推奨し、ほとんどの学生が受験している検定試験もあるが、学科毎の特性に見合った検定試験一種類以上の受験義務化に向けて、学内で検討する。
- ・在学中にファッション業界の職業を幅広く知ることができると思う。学生は自分の進路目標に向かって突き進むため、目標以外の職種についての情報が目に入りにくくなる。その部分を学校にフォローしてもらえると、より職業選択の幅が広がり学生の将来が拓けるのではないかと。
→ガイダンスや個別の就職指導を通じて、職業については日頃から幅広く紹介しているが、間口が狭く就職できる可能性の低い職種に関しては、学校として推奨しにくい場合もある。学生自身、本人が目標としている職種以外に興味を示さない場合も多いので、今後は、学生一人ひとりの希望や活動状況を見ながら、できるだけ幅広い職業選択のサポートをしていくように就職指導担当者と連携する。

以上